

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月26日

【評価実施概要】

事業所番号	0872000807
法人名	有限会社 ライフファクトリー
事業所名	グループホーム 美桜
所在地 (電話番号)	茨城県つくば市小野川10-12 (電話)029-861-8661

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年8月24日	評価確定日	平成20年1月21日

【情報提供票より】(平成19年7月30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 16 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 4.2人	

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	軽量鉄骨 造り	2 階建ての 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

(4)利用者の概要(7月22日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名	
要介護1		名	要介護2	2	名	
要介護3	6	名	要介護4		名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	74 歳	最低	56 歳	最高	85 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	桜水会 筑波病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅街の中に位置しており、目の前にある児童公園は緑豊かで利用者や職員の憩いの場となっている。ホーム内は広い玄関ホールなどに利用者の写真が多数飾られ、訪問者を温かな気持ちにさせてくれる。利用者もその人らしさを重視したケアの提供を受け、明るくにこやかに過ごしている。職員は利用者の個別性を理解しながら個々のペースに合ったケア提供に配慮し、またその実践に努めている。今後も、家族の意見や要望などを取り入れ、地域との連携を図りながらより質の高いケアの実践を期待したいホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	身体拘束についての話し合いやケアの検討が行われ、身体拘束の無いケアの実践が行なわれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	代表者・管理者が中心になり取り組んでいた。自己評価の必要性を理解している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	第1回目の会議が行われ、地域交流の場を広める取り組みについての話し合いが行なわれている。また、次回の会議の内容も検討されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会の開催時や面会時に意見や要望などを聴き、それを活かせるように取り組んでいる。また、利用者の近況報告も頻繁に行なっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームのイベントに地域の方が参加したり、地区のイベントにホームが共催という形で参加し、地域とのつながりは深い。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が毛筆で書いたわかりやすい表現の理念が目 に留めやすいリビングに掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に 向けて日々取り組んでいる	ケアの振り返りを行なう時には理念を原点としていくよう カンファレンス等で話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自 治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地 元の人々と交流することに努めている	代表者が自治会に参加していることで、地域住民との かかわりも広くもたれている。利用者の参加できる地域 イベントの誘いも多くある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評 価を実施する意義を理解し、評価を活かして具 体的な改善に取り組んでいる	前回の評価に対しての取り組みは積極的に行なわれ ている。自己評価の重要性や必要性に対しての理解 は深い。	○	一部の職員のみでなく、全職員で自己評価に取り組む事 により、ホーム全体で取り組むべき内容が明らかになる事 を期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	第1回目の会議が行われ、運営方針等ホームの説明と 合わせて今後の地域との関わりや協力体制につい ての話し合いが行われた。		

茨城県 グループホーム美桜

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームを市職員が訪問する時期などを利用し、介護保険制度についての相談を頻繁に行い連携を図っている。		ホーム側からも積極的に行政担当へ出向く事で更に連携を強化していく事に期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	隔週1回、往診に合わせて電話での報告を行っており、頻繁に連絡を取るような体制を取っている。		家族との連絡を密に取りながら、家族の思いを受け取り寄り添う事で、更に利用者の生活の向上へと繋がると思われる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設立し意見交換の場としており、職員・家族・利用者が交流できるイベントの開催も行なっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代表者や管理者は、職員の離職を防ぐような取り組みを行ない、利用者の混乱を最小限にできるよう取り組んでいる。		職員に無理のない勤務体制の配慮により、更に職員の離職を防ぐ取り組みが期待される。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者やベテランの職員に、仕事での助言や指導を受けられる環境にある。	○	勉強会や内部研修などの機会、外部研修の参加は一部の職員となっているため、職員の資格や本人の希望などを考慮した様々な研修に参加できる体制作りが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のサービス連絡会に参加し、意見交換や勉強会などを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を行なっているが、困難な場合は通所してもらい機会を設けることで、ホームでの生活に馴染める様に配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごす時間を大切にしており、同居人としてお互いの関係性を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や思いを尊重し出来る範囲で実現できるようにするため、センター方式アセスメントシートを活用している。		利用者の生活歴の把握を更に行なうために積極的に家族への協力依頼を行なう事に期待する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見を確認する機会も設け、個別的な介護計画の作成が行なわれている。また、日々の記録を基に支援経過記録も取っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングシートの活用や定期的なカンファレンスで職員間の意見を基に、介護計画の定期的な見直しが行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム2階に開設された通所介護と連携を図っている。認知症の相談や他の施設との連携も図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週の往診とあわせ、24時間対応可能な協力病院との連携が図れている。また、適時の訪問看護も導入されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの事例があり、家族の希望や本人の意向などと合わせ、職員も終末期ケアの受け入れに対し前向きに取り組んでいる。	○	看取りケアの経験を活かし、利用者の重度化を視野に入れたケアマニュアル作成や職員間の連携を深める取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のケアでは利用者のプライバシーを尊重した言葉かけなどが実践されていた。	○	利用者・家族に個人情報の取り扱いについての説明や同意書を得る事により安心したケア提供を期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員はその人らしさを尊重したケアを実践しており、利用者のペースを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、片付けなど利用者と職員が一緒に行なう事で食事を楽しんでいた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望する時間に入浴でき、菖蒲湯やゆず湯など季節感を味わえるよう気を配っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の性格など個別性を重視し、それぞれが役割や楽しみごとを持った生活が送れるよう支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの前にある公園への散歩は日課になっており、買い物や外食など外出の機会は多く設けられている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは道路に面しており、危険防止のため施錠している時間を設けているが、利用者の希望に合わせて開錠している。		玄関のチャイムなどを活用しながら、施錠する時間の短縮に期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携を取りながらの消防訓練の実施が行なわれている。		食糧や医療品の備蓄についてや近隣住民との連携を深める取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おおよその摂取カロリーの把握はされており、制限のある利用者に対しても配慮されている。	○	献立の作成に当たり、協力病院の栄養士や保健センターの協力を得ながら摂取状況の把握や健康管理に努める事が望ましい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内外ともに落ち着く雰囲気、自宅で過ごしているような寛いだ空間となっている。ソファで休息を取る利用者も多く、居心地の良さを感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は利用者が大切にしてきた物や使い慣れたものが多く置かれ、個性を重視した空間となっている。		利用者の認知レベルや居室の雰囲気に合わせた表札について職員・利用者との検討を期待したい。